

# 現在までのあゆみ



## 大川越市ここに誕生

これは、昭和三十年四月一日発行の川越市政だより（現在の広報川越）合併特集号の見出しです。

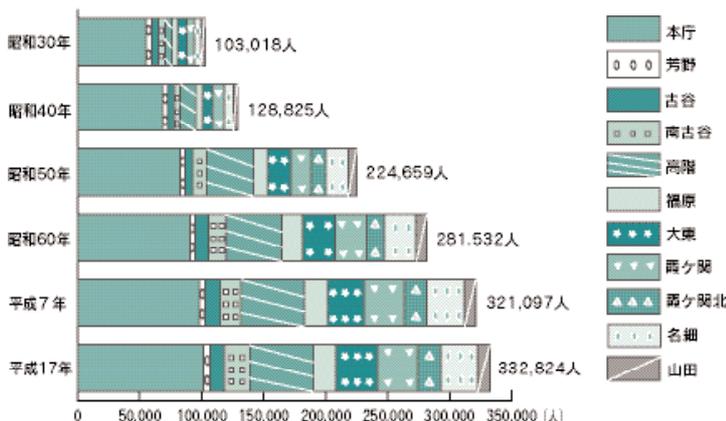
大正十一年（一九二二）、川越町が仙波村と合併し、市制施行を行いました。そして、昭和十四年に田面沢村と合併。市の領域を広げました。

この三度目の合併で川越市は、ほぼ現在の形になりました。合併前の市の面積は、二七・五八平方キロメートル。それが一一〇・二六平方キロメートルと約六倍に広がり、人口も五万五千二百二十七人から十万三千十八人と倍近くに増え、新しい川越市はスタートしました。

## 人口の変化

下のグラフは合併から現在まで、十年ごとの人口を表しています。ことし十一月一日現在は、およそ三十三万二千人と合併当時に比べ三倍以上に増え

表・合併から10年ごとの人口



\* 昭和41年に霞ヶ関第2出張所（現在の霞ヶ関北出張所）開設により、霞ヶ関・名細地区の管轄に変更があったため、合併当時の区域とは異なっています。

\* 昭和30年は市政だより、平成17年は11月1日現在、それ以外は統計かわごえより。

昭和三十年、川越市は芳野・古谷・南古谷・高階・福原・大東・霞ヶ関・名細・山田の九か村と合併し、現在の形になりました。  
合併から五十年となることし。この企画記事では、問い合わせ：広聴広報課広報担当・内線2124

川越市合併からの主な出来事

西暦	年号	出来事
1955	昭和30年	川越市と周辺9か村が合併
1957	32年	上江橋開通（当時は有料橋）
1958	33年	市営ごみ焼却場運転開始
1960	35年	町名地番整理の実験都市に指定される 新宿浄水場開設
1963	38年	市内のごみ定時収集開始
1964	39年	市民会館完成
1966	41年	川越・狭山工業団地造成完成 霞ヶ関第2出張所（現霞ヶ関北出張所）開設
1967	42年	埼玉国体開催（バレーボール・準硬式野球）
1969	44年	学校給食センター完成
1971	46年	老人会館（現東後楽会館）開設 関越自動車道（練馬・川越間）開通
1972	47年	現在の市役所本庁舎完成
1973	48年	人口20万人突破 市立診療所新築統合
1978	53年	西清掃センター本運転開始
1979	54年	西後楽会館開設
1981	56年	国道254号バイパス（川越・富士見間）開通
1982	57年	市の木（カシ）・花（ヤマブキ）と市民憲章を制定
1983	58年	児童センター・こどもの城開設 川越市総合計画実施
1984	59年	入間大橋開通 市立図書館（現中央図書館）開設
1985	60年	川越線全線電化と埼京線開通（直通運転開始）
1986	61年	東清掃センター運転開始
1987	62年	窓口業務のオンライン開始 東上線と有楽町線の相互直通運転開始
1988	63年	西文化会館（メルト）開設
1989	平成元年	農業ふれあいセンター開設
1990	2年	人口30万人突破 市立博物館開設
1991	3年	川越駅東口再開発終了 一番街の電線地中化
1992	4年	川越運動公園陸上競技場開設 市の鳥（カリ）制定
1994	6年	南文化会館（ジョイフル）開設
1995	7年	総合福祉センター・オアシス開設 川越運動公園総合体育館開設 第二次川越市総合計画実施
1996	8年	川越シャトル運行開始 自動交付機で住民票の写し・印鑑登録証明書を発行
1997	9年	住宅用太陽光発電システム設置補助開始
1999	11年	総合保健センター開設 ISO14001取得
2002	14年	霞ヶ関北小学校移転新築し、伊勢原公民館・西図書館を併設 クラッセ川越開設 北部地域ふれあいセンター開設 市立美術館開設
2003	15年	中核市移行 川越まつり会館開設
2004	16年	川越市保健所新築 彩の国まごころ国体開催（サッカー・ゴルフ・バレーボール・高校野球軟式）
2005	17年	合併50周年 「川越氷川祭の山車行事」が国の重要無形民俗文化財に指定

ています。人口が二十万人を超えたのは昭和四十八年、三十万人を超えたのは平成二年のことでした。

昭和四十四年二月十日発行の広報川越には、「躍動する川越、人口十五万突破」という記事があり、高階・霞ヶ関両地区の人口増加を紹介しています。その記事の中で、同三十七年末と同四十四年末の人口を比べ、約二・五倍伸びていると紹介されています。また、東武東上線・和光市駅と川越市駅

間の人口増加率が全国一といわれているという記事もありました。

川越市の履歴書

川越市政だより合併特別号には、市が発表した新市建設計画が紹介されています。その中の基本方針に、強力な自治体の育成・教育文化の向上・農商工推進による産業の振興・交通の充実があげられています。合併後の川越市は、この四つの柱を中心に発展を誓

いました。

左の表は、この五十年間の主な出来事です。昭和三十年代は、水道・ごみ収集など生活環境の向上を目指していました。

宅地開発により人口の伸びが著しい昭和四十年代は、住宅団地や工業団地の造成が進み、道路の整備や学校の新築・増改築、公民館の建設、市営住宅の整備も進みました。

昭和五十年代から六十年代にかけて

は、道路の整備がさらに進み、川越線も電化され、交通の利便性が向上しました。また、現在も市民の皆さんに親しまれている施設が造られています。

平成に入ると、福祉関連の施策が充実し、総合福祉センター・総合保健センターなどの施設が造られました。また、景観・環境・教育・交通の分野でも整備がさらに進みました。そして平成十五年には、県内で初めてのの中核市になりました。